

「緑内障」の通称名は「グラ」なのヨ④

今月のフジタガンカニュースは前回に引き続き緑内障関連の内容です。前号の最後では、当院での特殊な眼圧測定器について補足的なお話を書かせて頂きました。また、眼圧測定においては機器の選定と並んで角膜の厚みが重要である事が知られています。眼圧の測定は眼球の構造上角膜(黒目)を利用して行わなければならないため、一般的に「角膜の厚みが厚いと高く、薄いと低く測定される。」事が知られています。また、その角膜の厚みを換算する計算式も考案されているのですが、諸意見が混在しており、正式に認められた換算式というのは存在しません。つまり角膜の厚みを測定したから完璧に眼圧値を補正できるわけではないのですが、「そういう情報を参考にしながら経過観察を行う努力をする。」という方針は大切な訳です。経過が良好な方についてわざわざ角膜厚の測定をし直す必要はないと思いますが、当院では初診で新たに緑内障と診断されたケースでは左記図Cのような機器で角膜厚を測定し、その後の緑内障診療に役立てるよう心がけています。



では、日本眼科学会のホームページ上の解説の引用の続きです。Vol.26-のバックナンバーもご覧下さい<(_ _)>。



(2) 隅角検査
主に診断のために行う検査で、専用のコンタクトレンズを用いて行います。この特殊なコンタクトレンズを患者さんの目に押し当てて隅角を観察して診断します(左図)。点眼麻酔をして行いますので、痛みはありません。

(3) 眼底検査
視神経の障害の程度を判定するために行う検査です。視神経の眼球の出口(視神経乳頭)には、小さなくぼみがあり、緑内障ではこのくぼみが拡大します。健康診断などでは、よく

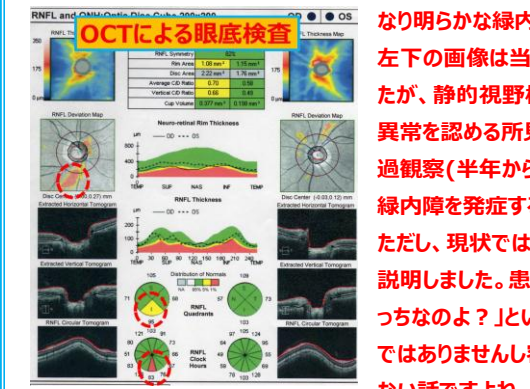
「視神経乳頭陥凹拡大(しんけいにゆうとうかんおうかくだい)」と判定されます。検査中は少しまぶしいことはありますが、痛みなどはありません。眼底写真撮影と同じような器械で、三次元画像解析装置も最近一部の施設で使われるようになりました。

この隅角検査は主に隅角の閉塞状態を診断するためのものなのですが、当院では特殊な検査機器(TMS-5)にてスリット光を回転照射させて前眼部断面画像(シャインブルー画像)を撮影することにより、簡便に診断をすることができます。右ページの上方の図は当院での検査データですが、視覚的に隅角の閉塞状況を理解しやすい検査結果が得られ

ます(角度の測定も可能です)。また、眼底検査に際しての三次元画像解析装置についても当院では検査が可能です。通称「OCT」と呼ばれている検査機器なのですが、当院では緑内障を疑った患者さんには積極的にこの検査を行うようにしています。(TMS-5についても、OCTについても保険適応となっている検査です)また、最近の緑内障診療におけるトピックとして「preperimetric glaucoma」というキーワードがあります。「preperimetric glaucoma」とは「構造的な変化は認めるが、通常の視野検査では障害が検出される前の極早期の緑内障」と一応定義されるんだそうです。難しくよくわかりませんよね…(笑)。あまり頭脳明晰でない私なりに理解するところによると…現状、最終的に緑内障の診断を確定する検査というのは視野検査なのですが(=視野検査に異常が出現して初めて緑内障と診断する)、最新の画像診断技術の進歩はめざましく、視野検査では異常が検出できないのに画像診断では(代表選手として OCT が挙げられます)かなり明らかな緑内障性変化を確認できてしまうケースというのが増えてきています



左下の画像は当院での検査にて画像診断上は右目の緑内障を疑うケースでしたが、静的視野検査では異常を認めませんでした。※赤の点線の丸印部分が異常を認める所見です「preperimetric glaucoma」と一応の診断をして経過観察(半年から一年の頻度)を行う事になる訳なのですが、ご本人には「将来緑内障を発症するリスクが高いので、一定期間において再検査を受けて下さい。ただし、現状では緑内障を発症していませんので心配し過ぎないで下さいネ。」と説明しました。患者さんからすれば「自分は緑内障なの？緑内障じゃないの？どっちなのよ？」という事なわけですが「緑内障ではない」のです。しかし、無罪放免ではありませんし容疑者としてその後の人生を送るというか…。なんともすっきりしない話ですよ。スママセン m(_ _)m。今後の眼科学の進歩の流れとしては、



現行の「preperimetric glaucoma」においても視野欠損を証明できるような鋭敏な感度の視野検査を開発できれば、より早期の緑内障に対して治療を開始することが出来るため、疾患の進行予防のためには望ましいという事が考えられます。つまり、そうした新しい視野検査の発明が待たれるわけで、一部ではその開発や実用も始まっております。ただし、まだ完全な形には至っていないようなのです…。

来月も緑内障特集が続きます。お楽しみに-(^o^)/



<http://www.fujita-ganka.com>

今月のお知らせ

今年もスギ花粉症の季節が到来しました。この時期にはマスクが手放せなくなる方も多く、メガネが曇ってしまって困ることも多いかと存じます。対策として曇り止めを使用するとやや曇りが軽減されます。ご希望の方はオグラメガネさんにお問い合わせ下さい。また花粉予防の専用メガネについてもオグラメガネさんで用意があるそうです。ご興味のある方は是非加藤さんにご相談下さい<(_ _)>。

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
P-Vision

①042 (645) 0575
①042 (642) 2911